

海外安全対策情報 2022 年第 4 四半期（10～12 月）

在ブルガリア日本国大使館

1 社会・治安情勢および一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）社会情勢

ア 政治情勢

所得増や賃上げ等を求めるデモが散発的に発生しましたが、治安への大きな影響は見られません。

イ 新型コロナウイルス情勢

9 月 8 日から適用されている保健大臣令は、11 月 16 日をもって適用期間が終了しました。これに伴い、医療機関等におけるマスク着用義務を含む、新型コロナウイルス感染症に関する全ての防疫措置が撤廃されることとなりました。

（2）治安情勢

ア 犯罪統計

ブルガリアの犯罪（刑法犯）認知件数は近年減少傾向にあり、2021 年は前年比マイナス 3.3%、過去 10 年間で約 35%の減少となりました。しかしその一方で、人口 10 万人当たりの犯罪認知件数を日本と比較すると、ブルガリアは日本の約 2.5 倍、特に殺人は約 5.1 倍、強盗は約 13.5 倍となっています。

イ 不法移民統計

内務省の発表によると、2022 年中にブルガリア国内において身柄を拘束された不法移民は 18,729 人で、前年から約 52.5%増加しました。

ウ 交通事故統計

内務省の発表によると、2021 年のブルガリア国内の交通事故発生件数は 6,080 件（前年比+370 件）、死者数は 561 人（前年比+98 人）、負傷者数は 7,609 人（前年比+488 人）でした。

欧州委員会によると、2021 年のブルガリアの人口 100 万人当たりの交通事故死者数 81 人で、93 人のルーマニアに次いで、EU 内ワースト 2 位です。

（3）日本人被害犯罪の発生状況

11 月下旬、午後 3 時頃にソフィア市内の路上において、荷物の整理を行っていた日本人旅行者が、目を離した隙に貴重品の入った鞆を盗まれたという置き引き被害を 1 件認知しています。

2 テロ・爆弾事件発生状況

この期間中、テロ・爆弾事件は発生していません。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人が被害に遭った事件は認知していません。

4 日本企業の安全に関する諸問題

ブルガリア国内における対日感情は基本的には良好で、日本人に対する差別行為はこれまであまり見られませんが、新型コロナウイルスは中国から持ち込まれたという思い等により、中国人と日本人との混同も含め、アジア人全体に対する差別が顕在化するおそれもありますので、十分ご注意ください。